KYOCERA

第12回 最小侵襲脊椎治療学会 MIST学会

The 12th Annual Meeting of Society for Minimally Invasive Spinal Treetment

MIST in Toyama キトキト! セミナー5〈MiT5〉

超高齢社会における腰椎変性疾患治療の問題点

日時 6.25 2022 [SAT]
10:35 - 11:35

現地開催 ライブ配信

会場 富山国際会議場 第3会場

座長 森本 忠嗣 先生
佐賀大学

演者 藤田 順之 先生
藤田医科大学

京セラ株式会社 メディカル事業部
〒612-8501 京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地
https://www.kyocera.co.jp/prdct/medical/

共催：第12回 最小侵襲脊椎治療学会、京セラ株式会社
単位：必須分野［7］脊椎・脊髄疾患　取得単位（SS）脊椎脊髄病単位

© 2022 KYOCERA Corporation

超高齢社会における腰椎変性疾患治療の問題点

藤田医科大学 整形外科学講座　藤田 順之

超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸が大きな課題となっており、整形外科医にとって運動器障害に対する予防および治療を充実させることは喫緊の課題である。運動器障害の中でも、腰痛が占める割合は多く、80歳以上では男女ともに約30％が「足腰の痛み」を持ち合わせていることが報告されている。最近では、国民生活基礎調査などのデータから、腰痛と関節症は平均寿命にはほとんど影響しないものの、健康寿命においては腰痛と関節症を合わせると、男女ともに大きく関与していることが明らかにされた。腰椎変性疾患に対する治療としては、保存療法と手術療法に大きく分けられるが、保存療法の中でも薬物療法においては、高齢者のポリファーマシーが大きな問題となっており、内服薬5剤以上で転倒、6剤以上で薬物有害事象のリスクが上がることが報告されている。自験例では、高齢者の運動器変性疾患の中でも、腰椎変性疾患においてポリファーマシーの頻度が有意に高いことが判明しており、今後、腰椎変性疾患患者のポリファーマシーをいかに減らしていくかを考える必要がある。手術療法においては、近年固定術併用の頻度が高くなっているが、高齢者に固定術を行う場合、骨癒合率が問題となることが多く、術前からの骨粗鬆症対策や移植骨の選択に注意しなければならない。インプラントにおいては、早期の骨癒合を目指して、銀を含有するハイドロキシアパタイト被膜を有したり、3Dプリンタによる特殊な微細構造を有するような脊椎固定用デバイスが上市しており、今後の臨床結果が期待される。最近、動物実験レベルではあるが、我々も間葉系幹細胞と特殊な不織布を用いた椎体ケージの開発を開始した。本講演では、上記のことをふまえて、超高齢社会における腰椎変性疾患に対する治療の問題点について概説したい。